

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団	
施 設 名	伊丹市立演劇ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,526	(千円)
	公 演 事 業	4,960 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,516 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,050 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	マームとジプシー 『cocoon』	令和2年8月14日～16日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	430
		伊丹市立演劇ホール		実績値	—※
2	現代演劇レトロスペク ティヴ 小原延之+T- works 共同プロデュース 『丈夫な教室』	令和3年1月14日～17日 ※	作・演出：小原延之 出演：丹下真寿美、是常祐美、田矢雅美 他	目標値	500
		伊丹市立演劇ホール		実績値	510
3	現代演劇レトロスペク ティヴ MODE 『魚 の祭』	令和2年12月18日～20日	作：柳美里 演出・舞台美術：松本修 出演：孫高宏、木下菜穂子、保、松下美波 他	目標値	380
		伊丹市立演劇ホール		実績値	485
4	AI・HALL リーディング 『郷愁の丘ロマンピ ア』	令和2年11月22日	作・演出：山田百次 出演：金替康博、森本研典、上田一軒 他	目標値	92
		伊丹市立演劇ホール		実績値	78

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演劇ラボラトリー 上田一軒+村角太洋プロジェクト	令和2年6月～令和3年3月	【講座】講師：上田一軒、村角太洋 【公演】作：村角太洋 演出：上田一軒	目標値	入場者 350・参加者 16
		伊丹市立演劇ホール		実績値	入場者 293・参加者 16
2	伊丹想流劇塾第4期	令和2年6月～令和3年1月※	【講座】講師：岩崎正裕、サリ ngROCK 【公演】総合演出：岩崎正裕	目標値	参加者 12・入場者数 145
		伊丹市立演劇ホール		実績値	参加者 12・入場者数 251
3	伊丹想流劇塾マスターコース第4期	令和2年6月～令和3年1月	講師：ごまのはえ、高橋恵	目標値	参加者 8
		伊丹市立演劇ホール		実績値	参加者 7

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「地域とつくる舞台」シリーズ いたみ・まちなか劇場 「味わう舞台 vol.3」	令和2年10月～11月	出演：高安美帆、北村成美、林英世、蠅螂襲、丹下真寿美	目標値	160
		伊丹市内飲食店		実績値	133
2	「みんなの劇場」子どもプログラム 『かむじゆうのぼうけん～うみのしゃぼんだま～』	令和3年2月13日・14日※	作・演出：まいやゆりこ 出演：芦屋康介、大熊ねこ、葛西健一他	目標値	182
		伊丹市立演劇ホール		実績値	151
3	アイフェス!!2021(AI・HALL 中学高校演劇フェスティバル)	令和3年3月	対象：市内中学・高校演劇部	目標値	1,000
		伊丹市立演劇ホール		実績値	参加者 69・入場者 326
4	シニアのための「声に出して読む」特別篇	令和2年10月～11月 ※	講師：林英世 対象：60歳以上のシニア層 新型コロナウイルス感染症の影響により 成果発表会は中止	目標値	参加者 15・入場者 80
		伊丹市立演劇ホール		実績値	12(の べ42) ※
5	こどものための夏休みワークショップ	令和2年8月23日※	講師：砂連尾理 他	目標値	25
		伊丹市立演劇ホール		実績値	11
6	中高生のための夏休みワークショップ	令和2年8月8日～10日※	講師：大熊ねこ、笠井友仁、土橋淳志、中嶋悠紀子	目標値	80
		伊丹市立演劇ホール		実績値	57
7	土曜日のワークショップ	令和2年6月～令和3年3月※	講師：ボヴェ太郎、いいむろなおき、小原延之、森井淳、相原マユコ、隅地茉歩、阿比留修一	目標値	280
		伊丹市立演劇ホール		実績値	228
8	シリーズ「地域とともに考える」	令和2年10月～12月	講師：菅原直樹、いいむろなおき、小原延之、砂連尾理 他	目標値	30
		伊丹市立演劇ホール		実績値	97

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当館は、昭和 63 年以来、関西における現代演劇・現代舞踊の拠点として培った実績、経験の蓄積を活かし、市立の演劇専門ホールとして、独創性に富んだ企画運営や時代に即した良質な作品を創造し、提供している。また、伊丹市総合計画(第 5 次)政策目標「にぎわいと活力にあふれるまち」の施策実現を目指し、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を有機的に組み合わせ、舞台芸術の力で地域コミュニティの再生と創造を図り、常に活力ある地域社会の構築に貢献・寄与している。

令和 2 年度においては以下のミッション・ビジョンをもとに事業を組み立てた。

【ミッション】

- ①現代演劇・現代舞踊の力で常に活力のある地域社会の構築に寄与する。
- ②現代演劇・現代舞踊の拠点として、地域における舞台芸術の振興と発展を図る。

【ビジョン】

- ①独創性に富んだ舞台芸術を創造・継承・発展させ、多様性を受け入れられる心豊かな地域づくり
- ②交流人口増加と都市ブランドの構築と発信により、地域のにぎわいづくりと活性化を図る
- ③次世代の人材を育てることで、舞台芸術の発展と地域振興に寄与

公演事業は主にミッション②とビジョン②、人材養成事業はミッション①とビジョン③、普及啓発事業はミッション①とビジョン①をもとに事業を計画。当館周辺地域では、まだまだ劇場への敷居が高いと思われがちであるため、これらを払拭する事業を展開。今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施予定にしていた事業が中止及び一部内容を縮小したが、それ以外は当初の予定通りに進めることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

近年、関西圏において、若い演劇人たちの表現する場の不足が叫ばれている。大阪の劇場状況も芳しくなく、大阪市内においては舞台芸術に特化した専門の公共劇場は皆無であるため、当館のような 200 席程度の現代演劇・現代舞踊に適した劇場の存在はますます重要性を増してきている。このような状況下において、当館では、地域や劇団・カンパニーと連携して独創性のある自主制作公演を創作するとともに、内外の質の高い公演を地域に提供している。公演事業【2】・【3】では、現代演劇のレガシーを次世代へと継承することで、舞台芸術を発展させ、その本質的な価値を高めることで、多様性を受け入れられる心豊かな地域づくりに寄与した。普及啓発事業【2】では、就学前の幼児を主な対象に、劇場での鑑賞経験が少ない地域のこどもたちに良質な舞台作品を提供し、豊かな心と感性を育ててもらおうと同時に、劇場を身近に感じてもらい、地域に開かれた劇場になることを目指した。ほかにも学校へのアウトリーチ事業や児童・生徒を対象としたワークショップなど、18 歳未満の幅広い年齢のこどもたちに向けたきめ細かい事業を展開し、地域のこどもたちが舞台芸術に触れられる機会を拡充した。並行して、一般を対象にした演劇やダンスに気軽に触れてもらおうワークショップや本格的な演劇講座などを実施。年代や性別を問わず、誰もが日常的に舞台芸術を享受し参画できる環境づくりを推進した。普及啓発事業【1】では、劇場を飛び出し、市内の飲食店で公演を行った。公演だけでなく食事の評価も高く、市内外の様々な観客に地域の新たな魅力を知っていただくことで、地域経済向上の機会を持つことができたといえる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】来場者アンケートよりデータ抽出

・目標①：事業番号【2】【3】【4】において、入場者率は85%の高い水準を目指し、満足度を80%まで増加させる。⇒結果：入場者率76.4%、満足度65.9%

・目標②：事業番号【2】【3】【4】において、市外からの来場者の割合を70~75%に、地域店舗の利用率を40%以上を維持する。⇒結果：市外来場者率87.4%、地域店舗利用率49.5%

・目標③：事業番号【2】【3】【4】において、「30才以下」の割合20%を目指す。
⇒結果：24.2%

■所見：公演の中止や緊急事態宣言の影響によるキャンセルなどもあったため、入場者率・満足度は目標値に届かなかったが、WEBアンケートを取り入れたこともあり、回答率は高く、自由筆記には好意的な意見が多かった。今後も話題性のある公演を企画し、地域の人々の鑑賞機会の拡大や若年層の鑑賞促進に努めたい。

【人材養成事業】受講者・来場者アンケートよりデータ抽出

・目標①：事業番号【1】【2】【3】において、満足度を90%近くの高い水準で維持する。
⇒結果：満足度100%

・目標②：事業番号【1】において、修了後に舞台活動への参画意思を示す者の割合を70%以上に増やす。
⇒結果：81%

・目標③事業番号【1】【2】において、公演への来場者の満足度の割合を83%以上に増やす。
⇒結果：事業番号【1】64.9%、事業番号【2】65%

■所見：どの講座も満足度は高く、今後の舞台芸術活動への参画・継続意思を示す者の割合も増えたことから、演劇との様々な関わり方を学ぶ機会になったといえよう。来場者の公演満足度は目標値を下回ったが、無回答も多く、自由筆記の中では、好評の声が多かった。今後も事業を通して、演劇に係る人材養成に尽力したい。

【普及啓発事業】来場者・参加者アンケートよりデータ抽出

・目標①：事業番号【1】において、観客の満足度を80%まで増加させ、来場者居住地の市内の割合を50%台、市外の割合を40%台に維持する。

⇒結果：満足度81% 来場者の割合「市内」39%、「市外」59%

・目標②：事業番号【2】において、参加者アンケートの満足度を90%を超える高い水準で維持する。
⇒結果：満足度100% ※ただし、回答者はWEBアンケートの5名のみ。

・目標③：事業番号【7】において、受講生の満足度を高い水準で維持し、60歳以上の受講生の割合を40%まで増加させる。

⇒結果：満足度98.4% 60歳以上37%

■所見：普及啓発事業全体としては、参加者・来場者ともに高い満足度を維持し、市民への訴求力が高い事業を行えたと分析できる。WEBアンケートのみにした事業は回答率が良くなかったため、紙アンケートも上手く併用をし、情報を得ながら、今後も市民のニーズにあった事業の展開を図りたい。

【全体的な所見】どの事業においても、顧客満足度は目標値を達成またはそれに近い数値を出せたが、市内からの来場者は事業によって偏りがあつた。普及啓発事業から公演事業、人材養成事業へと導いていけるよう今後の事業計画を行いたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

■事業期間について

開催予定だった4つの事業のうち、1つが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。事業番号【2】は夏の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で稽古などが困難と判断し、1月の開催に変更。ただ、同じ企画の事業番号【3】と開催日が近くなったことで、記者会見など集約された広報活動が可能となり、マスコミにも多くとりあげられ、緊急事態宣言中の上演だったにも関わらず目標値以上の動員数となった。事業番号【3】は当初の予定通りの日程で行い、作者出演のシアタートークを2回実施した影響もあり、目標以上の動員数となった。事業番号【4】は、作・演出の山田百次が来阪し、5日間の滞在製作を行った。公演の完成度も高く適切な事業期間で合ったといえるが、関西でまだ上演されていない作品を取り上げるという企画だったため、事前の告知に難しさもあり、来場者数の目標値を達成できなかった。今後の集客方法に工夫を図りたい。

■事業費について

事業番号【1】の中止により全体の予算額からは大きく変更となったが、他の事業は、限られた予算内でアーティストやスタッフとの連携・協力によって、創意工夫し、作品創作に影響のない範囲(制作に係る費用等)で経費削減を心がけ、ほぼ予定通り執行できた。※公演事業全体の要望比 52.8%

【人材養成事業】

■事業期間について

事業番号【1】「演劇ラボラトリー」については、令和3年1月8日～2月28日の緊急事態宣言を受け、講座時間を短縮したり、当初予定していた開演時間を早めたりなどの変更を行った。事業番号【2】は、予定していた開演日が緊急事態宣言中であったため延期し、令和3年1月に補講を行った。公演は、座席を半数にしたが、日程を変えずに行うことができた。事業番号【3】は当初の予定通り行うことができた。

■事業費について

事業番号【1】・【2】ともに感染症の影響で席数を減らしたことなどから、経費の節減と収入の設定を上げることでバランスをとった。事業番号【3】は、講座運営に影響のない範囲で経費削減を心がけ、ほぼ予定通りに執行できた。※人材養成事業全体の要望比 89%

【普及啓発事業】

■事業期間について

事業番号【3】は、当初の上演予定日通りに開催したが、稽古や打合せなどの時間を制限して行った。観客は各校50名限定の招待制とした。事業番号【4】は成果発表会を中止とし、講座のみを開講。事業番号【2】は夏の上演を冬に移行した。事業番号【7】も緊急事態宣言中を避けて日程を変更した講座があった。事業番号【5】・【6】は児童たちの夏休みの短縮を鑑み、短い日程に設定しなおして事業を行った。事業番号【1】は、事業期間の変更はなかったが、食事を伴う内容と客席数を減らした影響もあり、目標動員数に届かなかった。事業番号【8】は、アウトリーチプログラムが一つ追加となったこともあり、目標動員数を大きく上回った。

■事業費について

感染症の影響もあり、講座事業を中心に開催日数を減らしたことで、経費の節減につながった。※普及啓発事業全体の要望比 65.1%。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【公演事業】

関西における現代演劇・現代舞踊の拠点であり、さまざまな表現を創造・発信する劇場として、時代を画した現代演劇作品の再創作や関西未上演の注目作を紹介する企画を実施した。事業番号【2】は、関西の人気劇団「そとばこまち」が2004年に当館で初演。社会を震撼させた附属池田小事件をモチーフにした作品を、今回、作・演出の小原延之が自ら改訂し「決定版」として上演。作者の祈りと鎮魂の思いが込められた本作には、「繰り返し上演すべき名作」という声も寄せられた。事業番号【3】は、作家・柳美里が、第37回岸田國士戯曲賞受賞作を初演時と同じ、松本修の演出で再創作した。オリジナルの原・戯曲を再構成することで、現代の時代性の中で「家族の崩壊と再生」というモチーフがより浮き彫りとなる作品となった。事業番号【2】・【3】ともに共通するが、20代の若手から関西のベテラン俳優が共に創作を行うことで、演劇論や方法論を次代に継承する機会にもなった。事業番号【4】は、青年団リンク「ホエイ」によって2018年に初演。第63回岸田國士戯曲賞の最終候補作にもなった。北海道を舞台にした本作を関西で活躍する俳優たちによってリーディング形式で上演。他地域の作家を京阪神の演劇ファンに紹介することによって、舞台芸術へのさらなる興味・関心を促した。また、作家の山田百次を演出・出演者として短期滞在製作に招聘することで、東西の表現者の交流の機会を創出することができた。



【2】『丈夫な教室』



【3】『魚の祭』



【4】『郷愁の丘ロマンピア』

【人材養成事業】

事業番号【1】では、戯曲や演出の持ち味を丁寧に引き出す演出で定評のある上田一軒と京都で活躍する演劇ユニット「THE ROB CARLTON」の村角太洋を講師に迎え、ワークショップ形式の講座と新作劇の創作を行った。受講生の個性やワークショップの様子から、村角が登場人物を受講生にアテ書きした作品を書き下した。コメディを得意とする2人の表現者の指導が、演劇初心者が多い受講生たちから個性的で豊かな演技を引き出し、誰もが楽しめるウェルメイドコメディを創作。

事業番号【2】・【3】では、劇作の初歩を実践的に学ぶ「伊丹想流劇塾」とその前身の「伊丹想流私塾」修了生が相次いで公募の戯曲賞を受賞しており、劇作家として評価を受ける人材を数多く輩出。近年では、山本正典(劇塾第3期)が、第27回OMS戯曲賞大賞を受賞した。



【1】演劇ラボラトリー稽古風景



【2】伊丹想流劇塾第4期 講座風景

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【普及啓発事業】

劇場に足を運ぶ機会が少なかった層をはじめ様々な世代の鑑賞活動の拡大を図り、文化芸術活動の場を提供。事業番号【1】において、劇場以外の身近な場所で舞台作品に触れられる機会を地域住民に提供。コロナ禍で人数制限を行い、過去2回の開催時より動員数は減少したが、「楽しみにしていたので、（コロナ禍でも）開催されてよかった」という声も聞かれ、文化芸術を気軽に楽しめる環境を作ることで、地域振興の一助となった。また会場提供店とも良好な関係を築くことができ、当館の活動に対して信頼と評価を得る機会となり、地域の事業者との連携・協働のプラットフォームの役割として機能した。

事業番号【2】では、未就学児童を対象に、鑑賞経験の少ない幼少のこどもたちがおやこで参加し、舞台の楽しさを存分に味わってもらうことで鑑賞活動の普及に努めた。また、事業番号【5】とも通ずるが、コロナ禍で保育所・幼稚園・学校などで催し物の発表機会が減っている中、こどもたちが舞台に参加し楽しむ姿を見た保護者たちに、実演芸術がこどもたちに与える影響力の大きさを感じてもらう機会にもなった。

事業番号【4】では、地域の朗読団体に所属するシニア層も参加しており、学んだことを自身の活動に持ち帰ることで、地域の文化振興や発展につながったといえる。

事業番号【6】では、プロの演出家・俳優や他校の部員と交流することで演劇に対する興味や関心を深める機会とし、青少年の舞台芸術活動の参画と拡大を推進した。事業番号【3】は、今年度、感染症の影響で他校との交流の機会は作ることができなかったが、プロの演劇人からの的確な講評を得ることで、今後の活動の糧とした。

事業番号【7】では、講師であるアーティストと市民が近い形で交流することができ、参加者が講師の演出する演劇作品に出演する等、本講座をきっかけに舞台芸術振興の輪が広がっている。

事業番号【8】では、特別支援学校へのアウトリーチや、福祉現場に演劇やダンスのアーティストが関わっている事例を取り上げたレクチャー&ワークショップを通して、過去、積極的にかかわってきた「教育」分野の課題だけでなく「福祉」分野にもすそ野を広げた。レクチャー&ワークショップには、介護士や社会福祉協議会の職員なども参加し、福祉の現場が抱える課題を解決する糸口を実演芸術の可能性と共に発信することができた。



【1】『味わう舞台 Vol. 3』ダンス公演



【1】『味わう舞台 Vol. 3』リーディング公演



【2】『かむじゅうのぼうけん～うみのしゃぼんだま～』

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

・平成 26 年度から岩崎正裕によるディレクター体制をとっており、現役のアーティストが芸術監督的役割を担うことで精力的な企画製作を行っている。約 30 年に及ぶ、現代演劇・舞踊に特化した事業実績及び経験の蓄積を活かし、関西はじめ全国から多くの劇団・カンパニーの招聘、ワークショップやレクチャーの講師としてアーティストを招くなど、地域内外の劇団・カンパニー・劇場と幅広いネットワークと連携・協力関係を活かした企画を実施している。

・コロナ禍で、中止になった事業や、内容を再検討する事業もあったが、状況に合わせて適切な状態で運営できるよう、組織内および事業の関係者間で都度、相談・協力して事業運営にあたった。運営や広報は事業に応じて市内の団体（教育委員会・商業者等）と連携している。

・毎月定例の事業会議においては、事業成果報告や担当による振り返りなど内部での事後検証を行ない、また、普及啓発事業などの企画によっては関わった外部スタッフまでも招集して反省会を設け、次年度に向けての事業内容の改善・向上を図っている。

ネットワークについて

・今年度は新型コロナの影響で公演が中止となったため叶わなかったが、これまで、北九州芸術劇場、上田市交流文化センター、三重県文化会館、四日市市文化会館など、多数の他地域の劇場と連携して公演を実施。

・インターンシップについては、主に近畿大学はじめ近隣の大学と連携をとっているが、令和 2 年度は新型コロナの影響もあり実施を見合わせた。また、アウトリーチプログラムの研究開発においては大阪芸術大学短期大学部（伊丹学舎）に継続して協力を仰いでいる。

・舞台鑑賞経験の少ない市民に対して身近な場所での鑑賞機会の提供を目的に、市内の飲食店を会場にした演劇・舞踊公演『味わう舞台』の実施にあたって、伊丹商店連合会、伊丹郷町商業会からの多大な協力を仰ぐことができた。各店舗や商店会、商業会など地域との連携協力によって持続可能な事業体制を整えられた。

管理運営面について

・当館を管理運営する公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団は、文化会館・音楽ホール・演劇ホールのほか美術館・スポーツセンターなど専門的に特化した市内 10 施設の運営に携わっている。また、これら 10 施設の指定管理者であることから幅広い人事交流が可能であり、財団内で人事異動を適宜実施し、多様な業務を経験することで職員の管理運営能力の向上を図っている。いたみ文化・スポーツ財団第三次経営計画（2019 年度～2023 年度）においては将来的に財団運営を中心的に担うプロパー／嘱託職員の増員による人材確保を謳っており、同時に、専門的業務を担当している施設指定採用職員にはより一層の能力を発揮してもらうよう、今後、専門職に位置付けることを検討し、管理職・一般職双方の組織体制の強化を図っている。さらに有期雇用の職員を、順次、無期雇用へ転換し、嘱託職員からプロパー職員の登用の機会を設けるなど、継続的に制作業務に携われる環境の整備に努めている。実際、現在の当ホール職員 6 名のうち半数が、ここ数年のうちに嘱託職員からプロパー職員へ内部登用されており、組織体制の強化と充実が図られている